

# 小名浜港 国際バルク戦略港湾

東日本地域の  
エネルギー(石炭)供給を支える拠点港を目指して  
(安価で安定したエネルギー(石炭)調達を支える港湾 小名浜港)



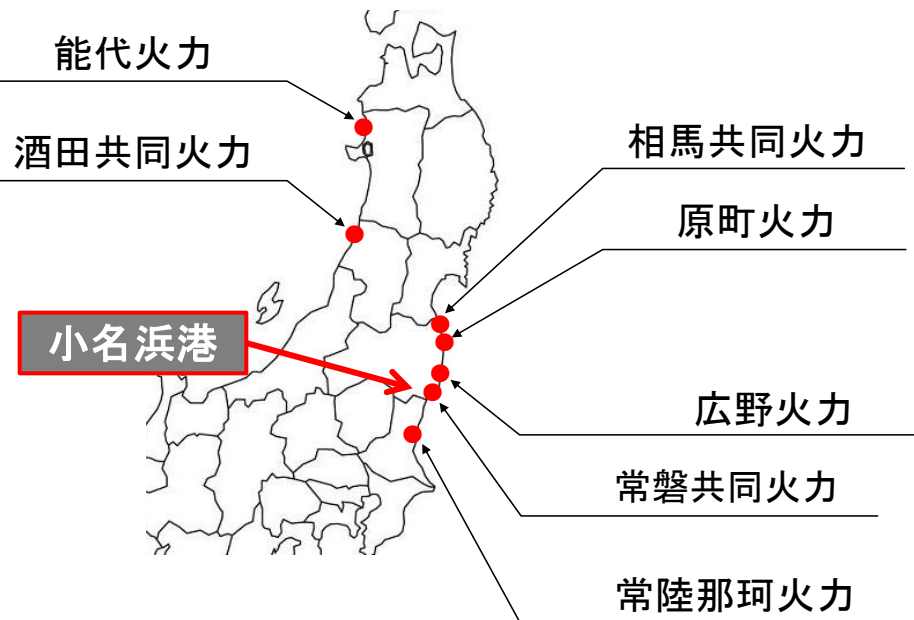
# ■小名浜港の特徴

## 【小名浜港の石炭取扱量】 (2008)

全国での取扱量 14位

中でも公共埠頭での輸入量全国1位

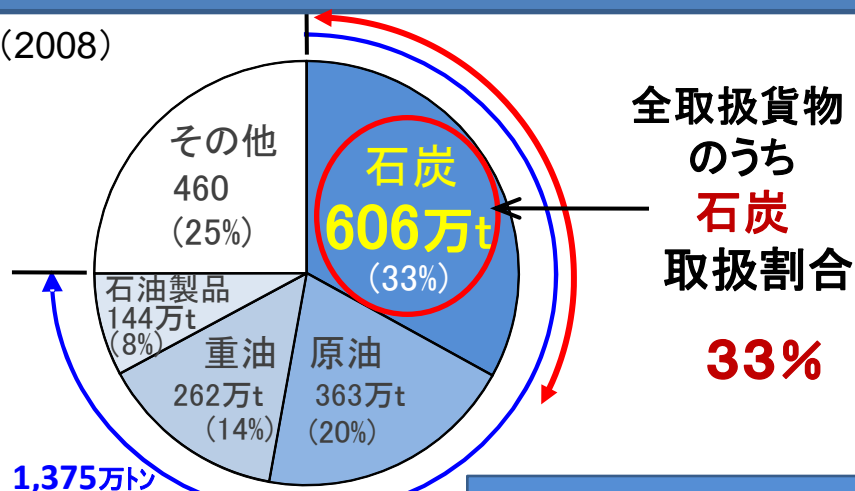
- 第1位 **小名浜港** 487万トン
- 2位 四日市港 230万トン
- 3位 八戸港 80万トン **2倍以上**



小名浜港周辺に**石炭火力発電所が多数立地**

## 小名浜港取扱貨物の75%はエネルギー貨物

(2008)



全取扱量 1,835万トン



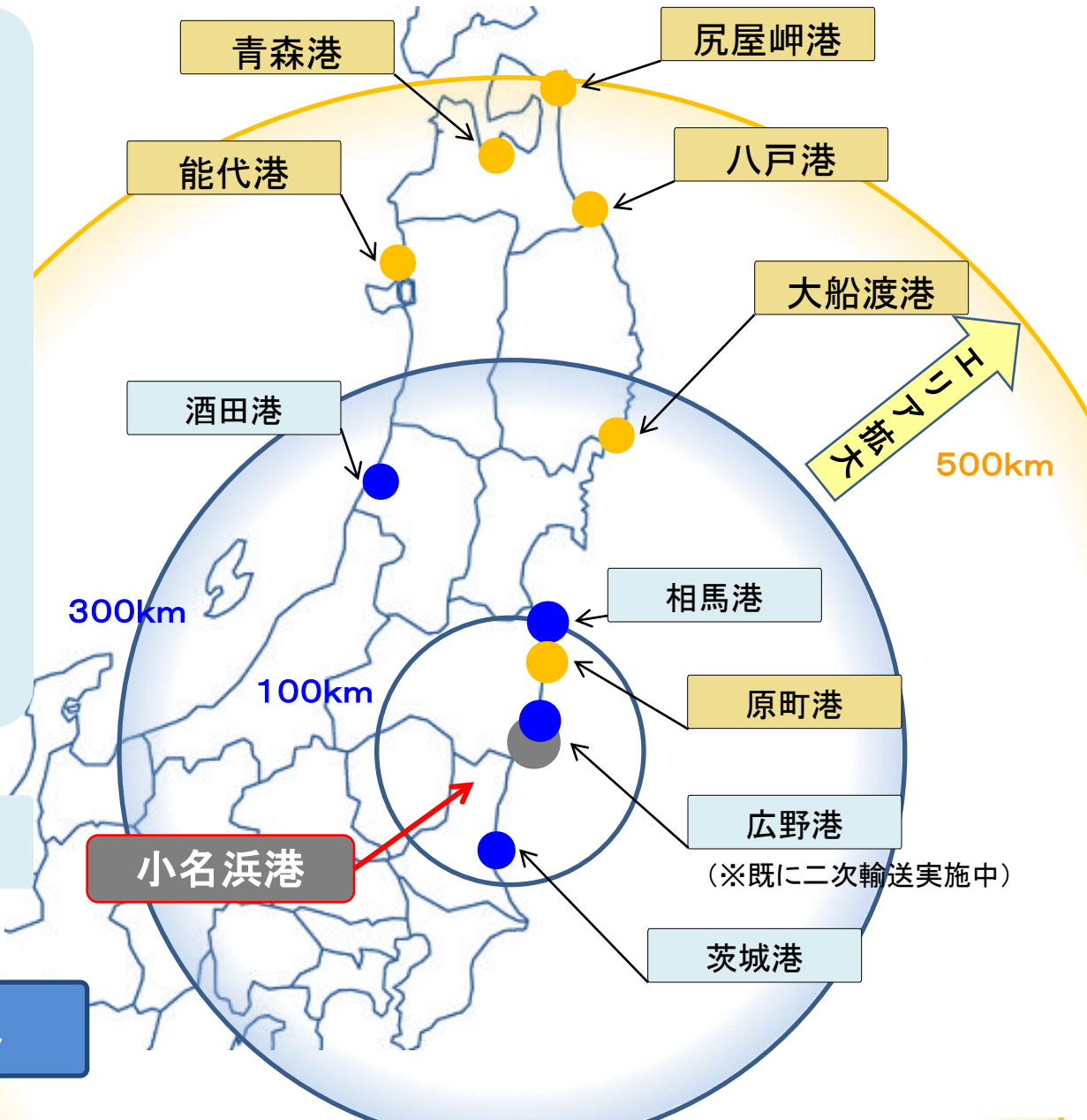


# ■連携港湾の追加による供給エリアの拡大

これまでの連携港  
 酒田港・相馬港  
 広野港・茨城港  
 4港  
 +  
 青森港・尻屋岬港  
 八戸港・能代港  
 大船渡港・原町港  
 6港を追加  
 ||  
 計10港

供給エリアの拡大

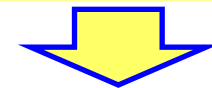
東日本の拠点港



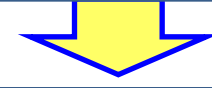


◎小名浜港の多炭種取扱い  
⇒年間20種類以上輸入

○多炭種輸入の強み  
⇒多くの連携ユーザーの炭種、積出港とマッチング



共同配船・共同調達が容易  
連携の実現可能性大



多くのユーザーへの波及効果大

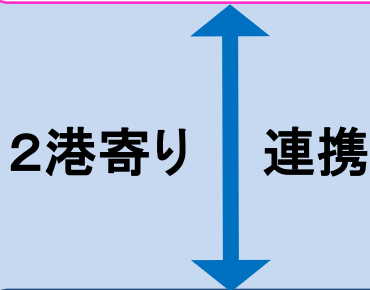


## 電力会社を主体とした共同配船・共同調達

### ビジネスモデル1 ～2港寄りによる連携～

- ・電力会社間の連携
- ・ケープサイズ船等の共同配船による2港寄り

電力会社 主体

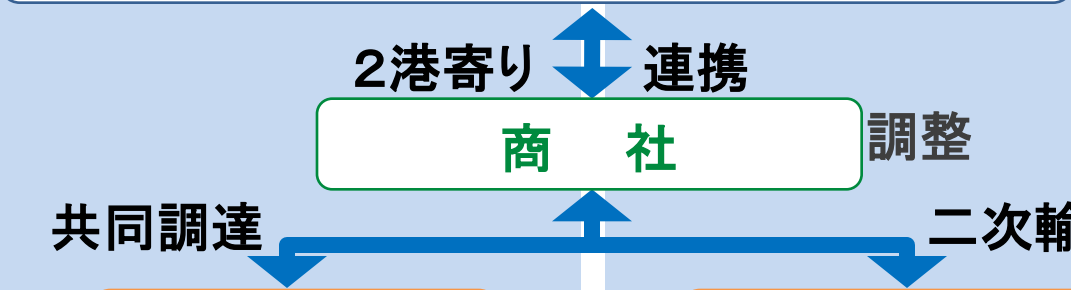


連携港

### ビジネスモデル2 ～ 共同調達+2港寄り～ による連携

- ・小名浜港背後石炭取扱企業の共同調達
- ・ケープサイズ船の共同配船による2港寄り

電力会社 主体

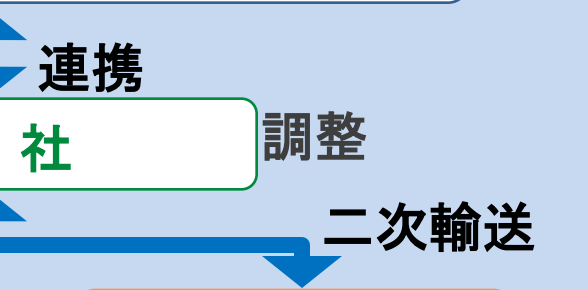


共同調達 小名浜港石炭ユーザー

### ビジネスモデル3 ～ 二次輸送+2港寄り～ による連携

- ・東北地方石炭輸入港湾との二次輸送
- ・ケープサイズ船の共同配船による2港寄り

電力会社 主体



二次輸送 東北地方石炭ユーザー



## 東港地区の有効利用と沖合展開

### ①パナマックス船に対応した公共岸壁整備と供用 (2015年目標)

既にパナマックス船対応の水深14m公共岸壁 **整備済**

さらに、貨物増加への対応のため東港地区に大水深公共岸壁 **整備中**

### ②ケーブサイズ船に対応した公共岸壁整備と供用 (2020年代目標)

東港地区の段階整備により  
**早期効果発現が可能**

#### 東港地区

- 漁業補償完了
- 埋立護岸完成

水深14m公共岸壁  
⇒ 水深20m公共岸壁  
に計画変更可能

○ 航路泊地浚渫に伴う発生土  
東港地区埋立に受入れ可能

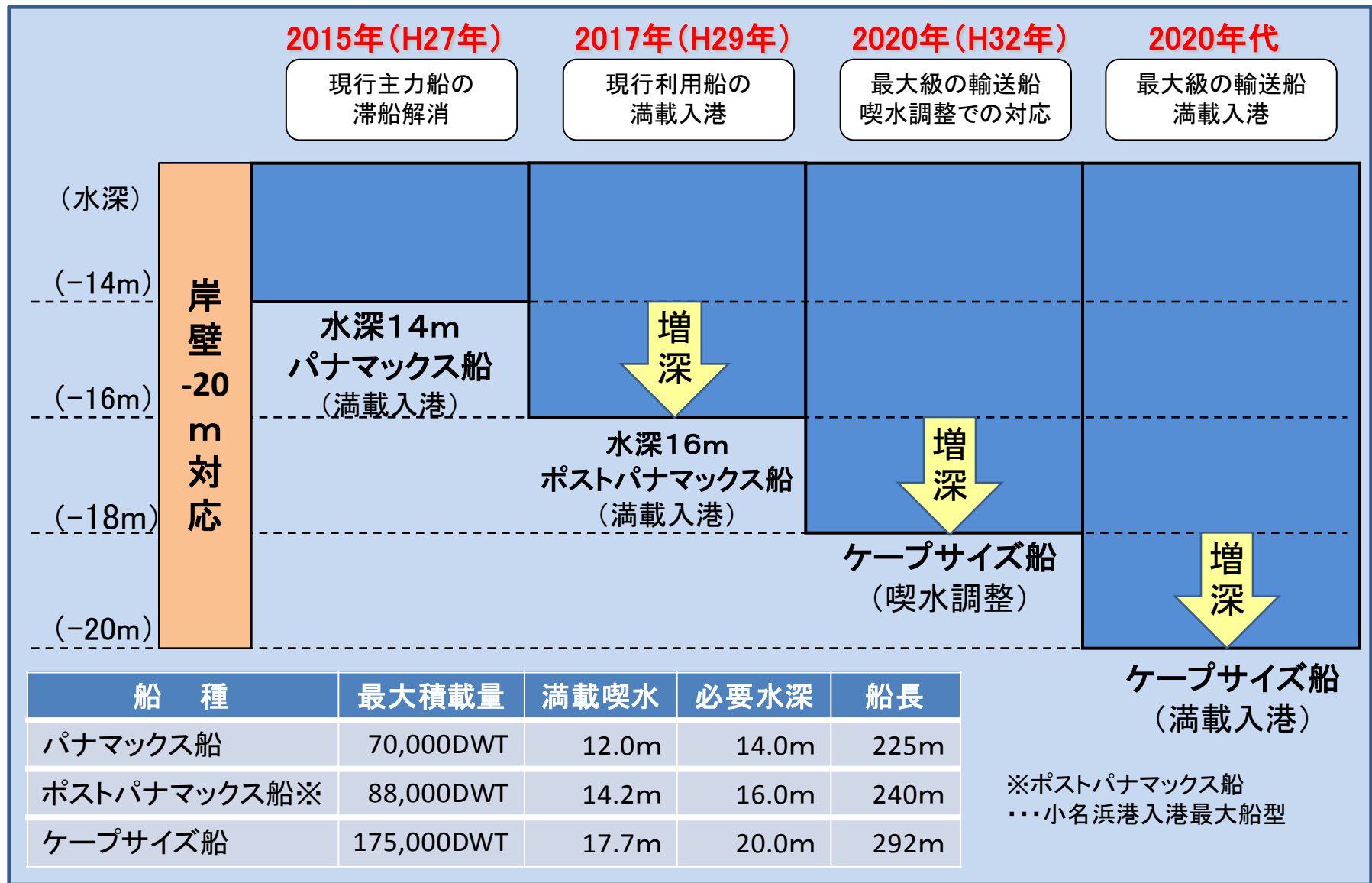
～ 効率的な事業展開～



さらに、将来的には**沖合展開が可能**



## 段階整備による早期効果発現





ケープサイズ船による大量輸送

調達先の分散化・多様化

リスクの分散と  
価格交渉力の強化

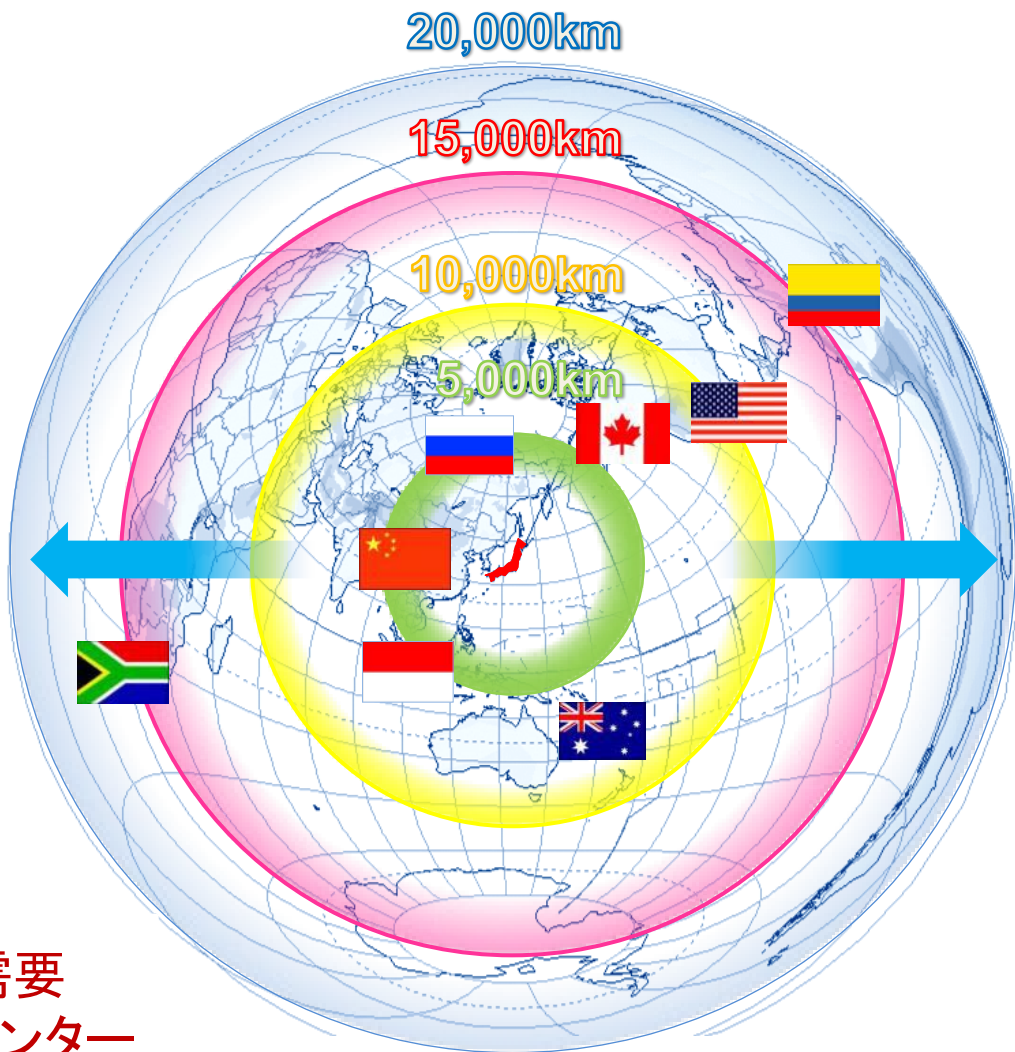
東日本各港への二次輸送

小名浜港への  
コールセンター機能整備

輸入先の供給変動等に  
対する調整能力の向上

特に **小名浜港** では……

- ◆ 高品質炭に限らない多炭種の需要
- ◆ 多炭種貯炭に対応したコールセンター
- ◆ 世界中の石炭が調達可能



**安価で安定した石炭調達の実現が可能**